

激動の経済下における企業の社会的責任

「君子成人之美」(「君子は人を助けてよい事を成し遂げさせる」)

中国大型国有企業のCSR報告書から見る企業の社会的責任 (報告要旨)

傅 穹*

今回のテーマは「『君子成人之美(君子は人を助けてよい事を成し遂げさせる)』中国大型国有企業のCSR報告書から見る企業の社会的責任」である。本報告では、主に2007年中国における大型国有企業のCSR報告書に基づき、以下四つ問題点から実証的分析を行うことにする。即ち、企業の社会的責任は重要であるか、企業の社会的責任はどのように見るか、中国における企業の社会的責任の特徴、および、中国における企業の社会的責任規範の問題点である。

孔子曰く「君子成人之美(君子は人を助けてよい事を成し遂げさせる)」と。これは世に処し、身を立てる道理であり、つまり、他人を助けることから自己の満足を実現することができるという意味である。この理念は、個人に対しても、企業に対しても、国家に対しても、いずれについても当てはまるゴールデンルールである。

第一に、企業の社会的責任は重要であるか? 私たちはどのような役割を演じて、たとえば、会社の重役である役員、業務に従事している従業員、企業に融資する銀行、他人に対して給付をなすべき義務を負う債務者、取引における供給者、商品を購入しあるいはサービスを楽しむ消費者、企業の権利侵害により被害を被った被害者、地域に住んでいる地域住民など、われわれは生活品質に対する享受、楽しみに対する追求ひいては人生価値観に対する理解が企業の社会的責任感の有無によって大きく影響される。企業自体が、従業員、消費者の権利を侵害する場合、あるいは、地域との調和を欠く場合、社会環境を恣意的に破壊する場合、このような企業はいかなる者によっても否定されるだろう。中国において、大型国有企業は一つの組織形態として政府の果たすべき責任の一部分を負担している。これらの企業はますますさまざまな責任を担うことが出来る最も有力な組織になりつつある。企業の社会的責任と利害関係者との理念は国際化した問題になっている。企業の社会的責任を着実に実行させるかどうかは、その企業は社会との調和が取れているかどうか、この国が持続的に発展できるかどうか、を判断する重要な基準になる。それゆえ、わが国(中国)は2006年1月1日に実施した新会社法第五条に「会社が経営活動を行うに際して、法律、行政法規を遵守し、社会公德、職業道德に従い、誠実かつ信用を重んじ、政府と

* 吉林大学法学院教授

社会公衆の監督を受けなければならない。会社の合法的な利益は、法律で保護され侵犯を受けない」と規定している。そして、和諧社会を建設するとの要請に応じ、上場企業の社会的責任感を強化し、積極的に社会的責任を引き受けるために、2006年9月25日に、深セン証券取引所は『上場会社の社会的責任手引』（以下は『手引』）を配布し、実施した。その中で、上場会社は企業の一員として、従業員、株主、債権者、供給者および消費者などの利害関係者に対して、尽くすべき責任を引き受けなければならないと規定した。それ故、上場企業は営利活動を行うに際して、法令・道徳を遵守し、消費者や労働者の利益・健康・安全を保障し、更に、積極的に環境保護や資源節約などの責任を引き受け、メセナのような公益事業を行わなければならない。

第二に、企業の社会的責任と企業の利益追求の最大化とは衝突するか？いうまでもなく、企業の基本的機能は富を作り出すことである。これはミクロ経済学での統一見解である。しかし、企業は経済的利益以外にほかのものを追及すべきではないのであろうか、これから私はチャイナモバイルのCSR報告書に基づき企業の社会的責任を内的側面から分析する。チャイナモバイルはH株で上場したリーダー企業であり、この企業の社会的責任は誠意と誠実にある。これはチャイナモバイルの社会的責任の出発点と基本原則だとわれわれは理解できる。第一段階は経済的責任である。これは誠実な態度で特徴を発揮し、最善の経営を行えるように努めることをいう。第二段階は社会的責任である。「どこでもどんなことでもできるデジタルエコロジーシステム」を作り出し、社会における自己価値を果たすことをいう。第三段階は環境責任である。資源を節約して、環境破壊を減少させ、人間と自然の調和を重視することに努めることをいう。つまり、チャイナモバイルの経営理念は「責任」と「卓越」であることが窺われる。市場経済において、企業はお金を儲けること自体が企業の社会的義務であり、その社会的責任を果たした以上全世界に富を作り出せるのである。

企業の社会的責任はそれぞれの利害関係者と深くかかわっている。政府の指導と監督は企業の経営活動の基本ルールと出発点であり、法律を守るとは企業社会の最低基準である。顧客は企業が生存・発展するためのもっとも基本的な条件であり、企業の経済的利益追求の源だと思われる。従業員は企業の組織細胞のように、企業が継続的に発展する基盤といわれる。投資者は企業の血管のように、企業発展の原動力といわれる。関連業界パートナーは企業の腕のように、顧客にサービス提供をサポートする。同業者は企業の同行者であり、市場の競争に影響している。公衆は社会と環境の受益者であり、企業が発展する基礎であり、社会と環境の発展は企業が成長するための土だといえる。

以上から見ると、企業の社会的責任は段階化だけではなく、利害関係者とかかわる多元的責任であると考えられる。

第三に、中国における企業の社会的責任はどんな特徴を持っているかの問題に関して、『上場会社の社会的責任手引』に基づいて検討する。『手引』には、株主権の保護について、上場企業

は長期的残余財産分配制度を設け、具体的な分配方法を制定し、積極的に株主に利益配当できるよう整備しなければならないと規定している。環境保護について、上場企業は環境に対する影響の程度に従って環境保護政策を制定しなければならないと規定している。上場企業の社会的責任の役割を果たす状況について、『手引』は情報公開制度を取り上げている。深セン証券取引所は、上場会社が『手引』に基づき、企業の社会的責任制度を設けることを奨励し、定期的に企業の社会的責任制度の実行と問題点を検査・評価することを通して企業の社会的責任報告書を作成する。そして、年度報告と同時に情報開示を行う。

以上をまとめると、

- 1、企業の社会的責任の規則メカニズムから見ると、法律による規制よりも道徳による拘束のほうが多い。
- 2、企業の社会的責任の構築構想から見ると、まず企業統治の仕組を手がけることにより企業の社会的責任を強化する。
- 3、企業の社会的責任の内的側面から見ると、会社は営利を第一の任務としながら経済的イメージの構築を重視する。
- 4、企業の社会的責任の機能から見ると、大型国有企業は政府の果たすべき責任の一部分を負担している。
- 5、企業の社会的責任の対外的影響から見ると、企業の技術革新および省エネルギー・環境保護に力を入れる。

第四に、中国における企業の社会的責任規範の問題点について述べる。要約すれば、

- 1、法律規定は実効性に欠け、かつ原則に限られている場合が多い。
- 2、CSR報告書に対する監督規制は存在せず、かつ承諾事項を履行するか否かに関する監督も存在しない。
- 3、CSR報告書には望ましいことばかりを報告し、不都合なことは伏せておくのが現状である。会社が担うべきCSR能力の減退や関連取引のような中小株主の利益に関する問題が回避されている。
- 4、中国における企業の社会的責任立法およびその実践は従業員および債権者の利益を未だに保障していない。
- 5、会社が担う社会的責任の水準はさまざまであり、中小企業の企業の社会的責任の意識が弱く、健全かつ有効な企業の社会的責任のメカニズムが存在していない。
- 6、企業の社会的責任と国の社会的責任の間の区別ははっきりしていない。

中国における企業の社会的責任という問題は、まさにこれから検討されようとしている。中国において、企業とりわけ大型国有企業が積極的に社会的責任の役割を果たすことは、重大な意義を持っている。企業は経済的責任を果たすことによって、その業界での発展を促進でき、就職を

促すと同時に消費を刺激し経済成長の良好な循環を実現することができる。企業は社会的責任を果たすことによって、地域社会の成長と和谐社会の発展を促進することができる。そして、従業員と消費者との利益分配のバランスを維持でき、最終的に企業の発展と社会の進歩のために安定した基礎を固めることができる。企業は環境責任を果たすことによって、手本を示すことだけではなく、企業自身を継続的に発展可能とするために、環境責任を促進することもある。

中国は重大な役割を果たせる大国として、和谐社会を建設し、人道的配慮を提唱し、住民の財産を保障する現在、企業の社会的責任感を育成することに全力を尽くすことができると信じている。本報告の冒頭の引用、孔子曰く「君子成人之美(君子は人を助けてよい事を成し遂げさせる)」と改めて申し上げる。

翻訳：大学院社会文化科学研究科博士前期課程 程 心馨

監訳：大学院社会文化科学研究科法学系教授 米山 毅一郎